

# 第3期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【概要版】

## 1 人口ビジョン策定に当たって（本編：P3）

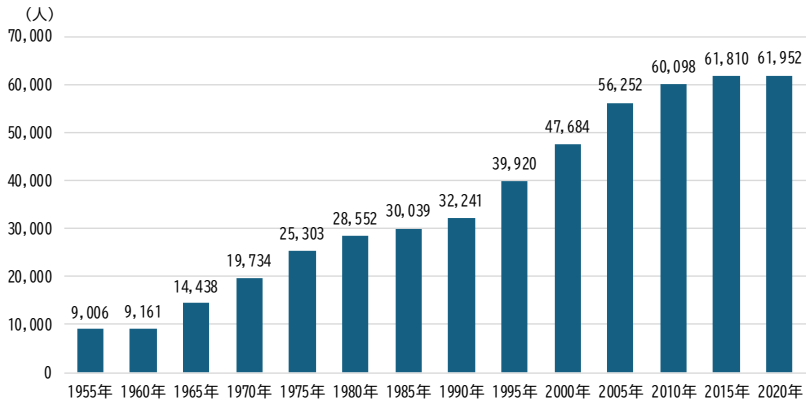
第3期みよしまち・ひと・しごと創生人口ビジョンは、人口の将来展望及び第3期まち・ひと・しごと創生に向けた効果的な施策を策定するための目指すべき方向性を示したものです。

## 2 人口の現状分析（本編：P3～P10）

### (1) 人口の推移

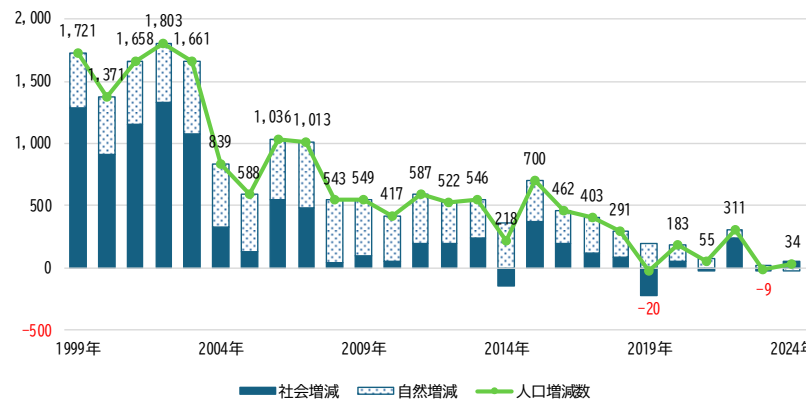
図表：本市の人口の推移

本市の人口の推移をみると、昭和30(1955)年以降、一貫して増加し続けており、令和2(2020)年では、61,952人となっています。



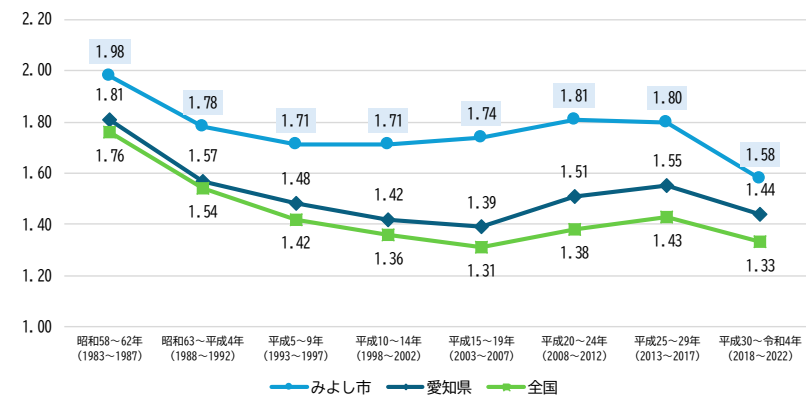
図表：自然増減と社会増減の推移

平成11(1999)年から令和6(2024)年までの人口増減数（自然増減数と社会増減数の合計）の推移をみると、人口増の状態が続いていましたが、平成14(2002)年の1,803人をピークに緩やかな減少傾向にあり、令和6(2024)年は34人の人口増となっています。



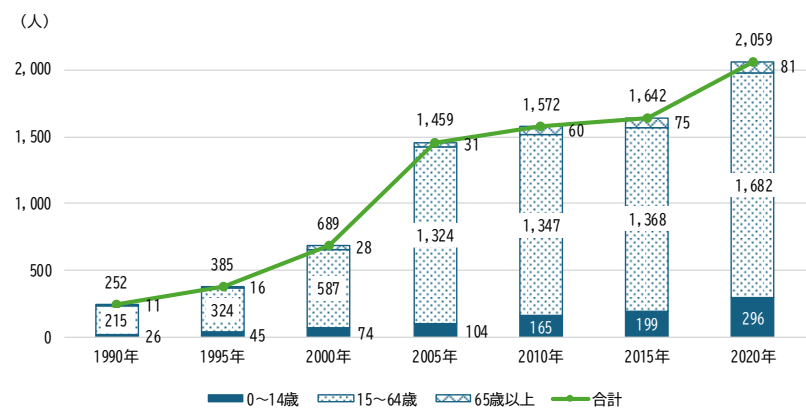
図表：合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、昭和63(1988)年から平成29(2017)年までの間、1.7から1.8と、全国及び愛知県と比較して、高い水準を維持してきましたが、直近の平成30(2018)年から令和4(2022)年は1.58まで低下しました。



図表：本市の外国人人口の推移

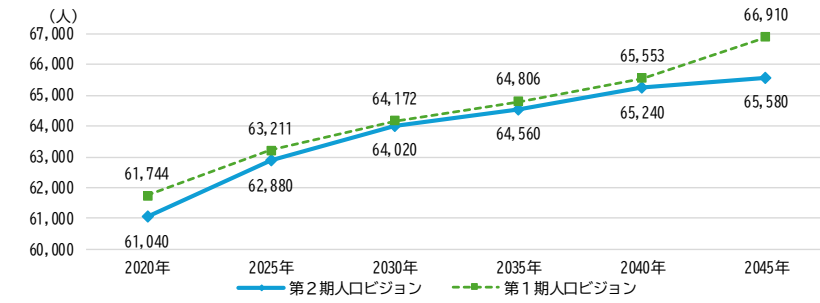
本市の外国人人口の推移をみると、平成2(1990)年以降、増加し続けており、令和2(2020)年では2,059人となっています。年齢5歳階級別でみると、20歳代～40歳代の外国人人口が大きく増加しています。



## (2) 将来人口の推計

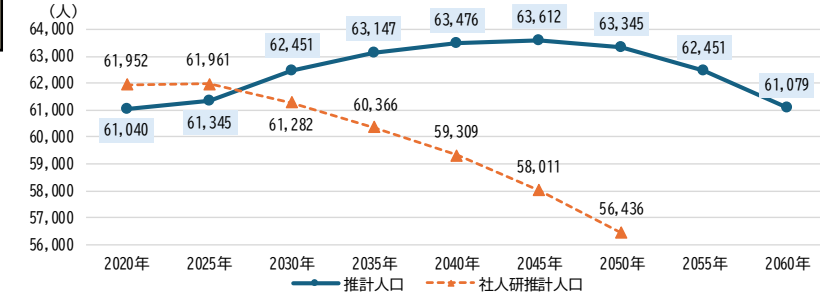
図表：本市の将来目標人口（第1期・第2期人口ビジョン）

第2期みよしまち・ひと・しごと創生人口ビジョンでは、第2次みよし市総合計画の人口の見通しに沿うものとなるよう、令和20(2038)年に人口65,000人となることを目指しました。



図表：本市の推計人口

国立社会保障・人口問題研究所が令和5(2023)年に推計した本市の将来人口は、令和7(2025)年以降は減少して令和32(2050)年には56,436人となると見込まれています。



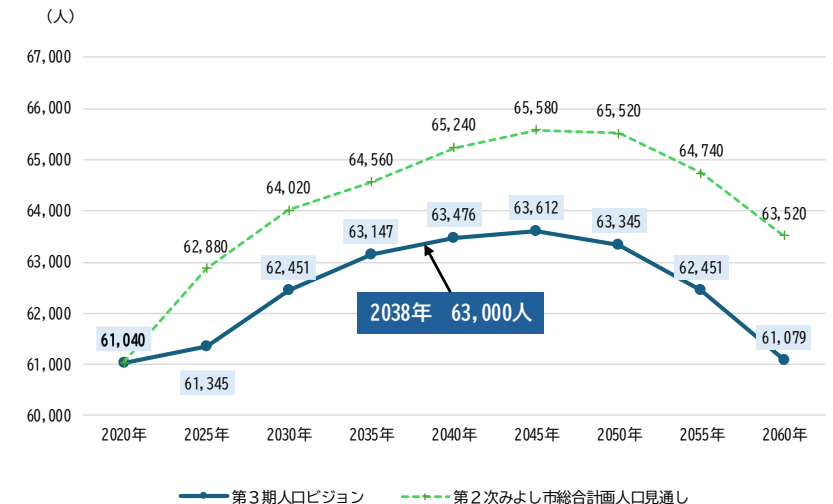
実績値に基づき本市独自で推計した人口では、令和27(2045)年にピーク人口63,612人となり、以降は減少して令和32(2050)年に63,345人、令和42(2060)年に61,079人となると見込んでいます。

## 3 人口の将来展望（本編：P11～P12）

図表：第3期人口ビジョン

第3期みよしまち・ひと・しごと創生人口ビジョンにおいても、引き続き、【合計特殊出生率及び移動率の維持＝自然増を促進し社会減を抑制】を目指すべき方向とします。

第3期人口ビジョンの策定年度が、第2次みよし市総合計画後期基本計画を策定した令和6(2024)年3月と近いこと、直近の年度において、転入・転出口比率が100%以上を概ね維持できていること、本市が実施する地方創生の取組の継続・推進により人口の増加・維持を図ることを踏まえ、第3期人口ビジョンは、現時点の人口を基準として、第2次みよし市総合計画における人口見通しに沿い、【令和20(2038)年に63,000人の人口を目指す】ものとします。



【第3期人口ビジョンにおける3つの視点】

- I 若い世代が希望を持てる就労・結婚・子育て・教育等の実現
- II まちの魅力向上とにぎわい創出を通じた転入・定住の促進
- III 生き生きと住み続けられる生活環境の充実